



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当:上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-520-5680 FAX.025-520-5853

ホームページ⇒

ふるさと上越



灯の回廊 上越市で提供

「たより」No.285 目次

会員数とふるさと市場報告	1
Jネットの活動とお知らせ	2
とれたて上越	3
上越の行事・展示会	
上越の話題	4
上越の名品、最高賞を受賞 あおき味噌、ならびに岩の原ワイン	
新刊本の紹介	4
森 洋子著「ブリューゲルと季節画の世界」	
いしずえ上越	4
戦争末期、高田への学童集団疎開	
旅情のまち・直江津の魅力紹介とライオン像のある館 (その2)	
上越産品販売のお知らせ	7
鯉橋師匠高座予定	7
会員ひろば	7
上越市からのお知らせ	8
Jネットからのお知らせとお願い	8

※ホームページ「ふるさと上越ネットワーク」では、「たより」を全ページカラーでご覧いただけます。

会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は602名(令和5年1月20日現在)です。(令和4年度目標610名)

(2) 「ふるさと市場」の販売取次状況(令和4年12月) 503点 566,135円 (前年同月 507点 603,673円)

当会創立 25 周年記念誌発行と御礼

当会は令和 4 年 7 月 30 日に創立 25 周年を迎えることができました。これもひとえに、上越市様はじめ関係各位、ならびに会員の皆様のご支援ご尽力の賜物であります。あらためまして厚く御礼を申し上げます。

その記念事業として、創立 25 周年記念誌を発行し、会員の皆様には、昨年 12 月にお届け申し上げました。

この記念誌発行にあたりまして、お祝辞やご寄稿をお寄せになりご協力下さった皆様や会員の皆様には、心より厚く御礼を申し上げます。制作にあたった記念事業プロジェクトチームのメンバーの皆様と当会事務局員、ならびにアライ印刷株式会社様の皆様には、深く感謝し、格別の御礼を申し上げます。
(会長 伊藤利彦)

1. サロンは、1 月 12 日にオンラインで開催

今回は、令和 5 年 2 月 9 日（木）次々回は令和 5 年 3 月 9 日（木）。ぜひご参加下さい。

1 月の恒例のサロンも、オンラインながらも、アルコールとつまみを片手に和やかに開催されました。

1 月のサロンも、オンラインで和やかに開催、新年を迎えたことを喜び合いました。初詣は、都心は混み、郊外はゆったりのものでした。TV や現場での恒例の箱根駅伝やサッカーなども観戦話もあり、「好きなチームがあるとスポーツが好きになる」と T 会員。年明けから大忙しの O 会員は仕事先の現場から、そして K 会員は仕事移動中での参加です。魚住さんからはサメかまぼこと酒粕の力の紹介があり、冬酒には持ってこいのつまみです。

初参加は、名古屋在住の K 会員。参加の O、K 両会員のお知り合いで、一同、元気をもらいました。来月もお願いします。

最後は、M 会員の娘さんの「ちんちらの銀ちゃん」が登場、あまりにも可愛くて、魅了されました。今年も楽しくなりそうですね。



1/12 ご参加のみなさん



銀ちゃん

【次回以降のサロン】 サロンは、毎月第 2 木曜日に開催します。

2 月 9 日（木）17：15 - 19：00、オンラインでの開催を予定しています。

全国どこからでも参加でき、アルコール片手に中座も自由、勝手なことを勝手に言える集まりです。初参加大歓迎。ご参加は超簡単、届いた URL をクリック 2 回で参加できます。

ご照会やご参加は、事務局 宮里 k.miyazato@araipt.co.jp TEL：03-5244-5138 までお願いします。

【有志による対面懇親会】

対面サロン再開については、照会や催促をいただいています。毎月の運営委員会でも検討していますが、コロナウイルス感染数が高水準にあり、当面は無理と判断しています。

一方、感染症対策の下、一部有志により、対面懇親会（2 月～頃開催）の企画があります。ご参加を希望される方は、事務局 宮里までご照会ください。

2. 春の交流会について

コロナ禍高止まりの現状から、無理はできません。仮に実施するとすれば、会場、往復などでのリスクを考慮し、下記条件を付しての開催となります。

1. 使用の施設（会場、宿舍、交通機関）について、感染予防対策を事前確認し、最大限の安全を図る。
2. 参加者の人数を絞り、かつ、自己責任にての参加とする。
3. 日程は、4 月 2 日（日）から 4 日（火）までを予定。但し、状況次第では、短縮、変更もあり得る。

上越市とも連携を図り、2、3 月の運営委員会にても開催可否を検討してまいります。開催可否の決定は、3 月 9 日（木）となります。

お問い合わせは、事務局 宮里：k.miyazato@araipt.co.jp、TEL：03-5244-5138 までお願いします。

3. いま旬のホームページ（HP）をご覧ください。https://joetsu.gr.jp/

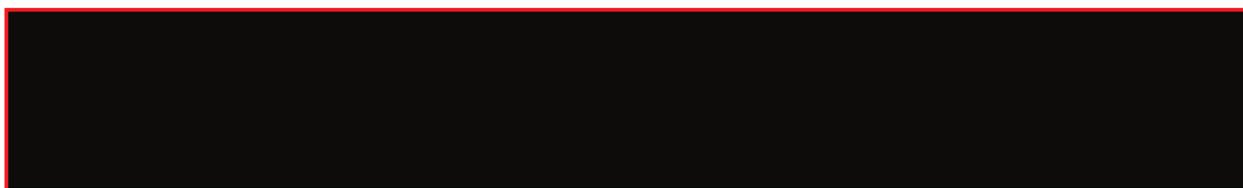
おかげさまで、JネットHPの閲覧は、国内、海外を合わせて大きく増えております。内容も、上越市の四季の写真他、次のように掲載は多様です。ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。

- ・お知らせ：上越関連 TV 放映や、上越産品販売のマルシェと雪國商店などの話題。
- ・「たより」：全頁カラーで過去 2 年分を掲載。・フォトギャラリー：上越の四季の写真多数。
- ・チャレンジ上越、とれたて・なんでも上越：「たより」掲載の上越記事など。
- ・他HPへのリンク：上越市、上越観光ナビ、当会特別賛助会員 7 社のHP。

Jネット会員は、上越タイムス電子版ならびに上越ケーブルビジョン（JCV）の動画を閲覧できます。上越妙高エリアの今をお楽しみください。

◎上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法（会員のみ）

- ① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし各社のHPへ
- ③ 下記のID・メールアドレス・PSWにてログインしてください。



とれたて上越

1. 上越の行事・展示会

(1) 第 98 回高田城址公園観桜会 主催：上越観光コンベンション協会

令和 5 年 3 月 29 日（水）～ 4 月 12 日（水）

高田城址公園と周辺で約 4,000 本の桜が咲き、3,000 個のぼんぼりに映し出される高田城三重櫓。

日本三大夜桜の一つです。開催内容は、詳細決定次第発表されます。また、開花状況により、会期延長もあり得ます。



令和 5 年ポスター

(2) 灯の回廊 2023 年 2 月 25 日（土）17 時～21 時（予定）

安塚区・大島区・浦川原区・牧区・高士地区・名立区の 6 区の沿道に約 10 万本のキャンドルが灯ります。子どもからお年寄りまで住民総出の大作品で、冷たい雪の世界が心を交わす温かい世界となります。詳細は未定ですが、照会は、上越市観光交流推進課 TEL：025-526-5111(上越市役所)まで。



(3) 企画展 「探検 むかしの暮らし」 上越市立歴史博物館

TBS でも放映されましたが、大正から昭和時代の暮らしの移り変わりを身の回りの道具で回顧します。はがま、ちゃぶ台、せんたく板、白黒テレビ、氷冷蔵庫など、懐かしいふるさとの生活がよみがえります。

期間 3 月 12 日（日）まで。開館時間 10：00～16：00。休館：月曜日。
照会先：上越市立歴史博物館 Tel：025-524-3120

上越の名品、相次いで最高賞を受賞

あおき味噌「特別吟醸づくり深雪みそ」が農林水産大臣賞

2022年の全国味噌鑑評会には、全国から305点が出品、「深雪みそ」は、最高賞の農林水産大臣賞を受賞した。前回の2019年に続いたの最高賞受賞となった。

岩の原ワイン「ヘリテージ 2019」は金賞

昨年開催の日本ワインコンクール2022において、「ヘリテージ 2019」は、国内改良等品種部門（エントリー数116銘柄）の金賞3銘柄の一つに選ばれた。

日本ワインコンクールは、国産ブドウ100%使用のワインコンクール。実行委員会は、ワイン産地4道県（北海道、山形、長野、山梨）の組合、日本ワイナリー協会、日本ソムリエ協会等で構成、2003年にスタートし、今回はコロナ禍での3年ぶり18回目の開催。12部門706銘柄がエントリー、25名の審査員が審査し、各部門での計24銘柄を金賞とした。（上越タイムス記事より）

新刊本の紹介

森 洋子著「ブリュゲルと季節画の世界」

16世紀フランドルの画家、ピーテル・ブリュゲル（父）の絵画は多くの人を魅了する。《ネーデルラントの諺（ことわざ）》《死の勝利》《バベルの塔》《牛群の帰り》《雪中の狩人》《農民の婚宴》などの作品を見ると、ブリュゲルは矛盾の多い人間性を問い、豊穡だけでなく、災害をももたらす自然の現実を直視し、田畑で熱心に働く農民たちや納屋でのにぎやかな農民の婚宴に親近感を抱いていることがよくわかる。

このほど、ブリュゲル研究で世界的にも第一人者の森洋子氏（明治大学名誉教授、ベルギー王立考古学アカデミー外国人会員、ベルギーや日本にて叙勲）によって、『ブリュゲルと季節画の世界』が上梓された。

本著には、著者の半世紀にわたる研究成果が盛り込まれ、刊行までに9年間を費やしたとのこと。ブリュゲルの風景表現の頂点とも評される5点連作「季節画」を取り上げ、そこに描かれたさまざまな季節の営み（労働と余暇）のルーツを先行作例である16世紀前半の彩飾写本、絵画、版画などから探索している。本文、注、書誌、索引を合わせると600頁、図版は400点の大著である。興味がある図版を見たら、そこだけ読んで楽しい本といえよう。



書評も、「読みの限りない増殖を味わう / 絵の魅力の謎を解く」（週刊読書人）、「伝統形式を脱し独自表現に / 農民への人文主義的視線」（読売新聞）、「ブリュゲルをライフワークとするエネルギーの源は私の郷土愛かもしれない」（新潟日報）などと、本著の捉え方も様々で幅広い。それだけに、ブリュゲル・ファンにとってはワクワクする書といえよう。定価（本体9,800円＋税）岩波書店発行。

森洋子氏は上越市出身で当会会員。朗報ですが、森会員より、近々、当会「たより」への特別寄稿がある予定です。ふるさとのことやブリュゲルに取り組むことになった経緯なども語られるかもしれません。大変楽しみです。

いしづえ上越

戦争末期、高田への学童集団疎開

「食事は、日に茶碗一杯ほど。だけど、つらいことなぞなかった」と90歳を迎えた貝塚隆雄さんは回想する。昭和19年9月、東京での市街地空襲が本格化する直前、葛飾国民学校6年生の貝塚さんは高田に疎開。ステーションホテルを宿舎に大手町国民学校（現・大手町小学校）に通った。翌20年正月に、国民学校卒業を前に東京に戻ったが、その5ヶ月間ほどを高田で過ごした。



疎開児童の燃料運び(高田市史)

昭和19年3月、高田市は、東京からの市民疎開受け入れを開始。同年9月に3年生から6年生までの学童集団疎開が始まると、第一陣として葛飾区の金町、末広、葛飾の3国民学校から、児童674名、教員17名、寮母27名、作業員23名の計741名が疎開してきた。

児童たちは、やすね、植木屋、森屋、東洋館、朝日屋、来迎寺、興亜荘、ステーションホテル、音羽館、対米館に分宿、大手町・南本町・大町・東本町・大貫の国民学校に通った。翌20年、長岡空襲があって、高田も危険となり、疎開児童たちは近在の高土、津有、新道、上杉、里五十公野、三郷、菅原、櫛池の各村に移された。

高田市民は、親元を離れ、リュックをしょって来たけなげな姿に感動し、親代りになって面倒を見た宿舎の主人も少なくなかったという。翌20年は稀にみる大雪の年で、疎開児童の苦労はなみなみではなかった。(高田市史より)

貝塚さんは、疎開の思い出を「勉強は、地元児童たちと一緒にだったが、とても厳しかった」「大雪でトイレはし尿処理ができなかった」とさらりと話すが、その苦労は並大抵のものではなかったはず。

事実、一緒に疎開した児童たちは「食べる物はなく、いつも7m位の雪が降っていて、暖房もなく、夜は布団一枚で寝させられるし、とにかく寒くて震えていました」「親恋しさに脱走者もいたが、みんな途中で捕まってしまった」「20年10月に帰ったとき、(栄養失調で人相が変わっていたため)親から『本当にうちの息子か?』と訊かれた」(葛飾区資料)と語っている。

「高田は雁木があっていい町だった。高田と縁があって良かった」と貝塚さん続ける。戦後になって、総合衣料店やインテリア家具センターを営む。その間に仕入れた器、古民具、骨董などは高田の縁を辿って入手したものも多いという。

その後、両店を閉じて、そば店を開くが、今日に至るまでに受け入れた高田はじめ上越からの働き手は、40名余り。今では、彼らの手で、貝塚会まで結成されているほどだ。生涯スポーツのスキーも、疎開の縁で戦後、赤倉を訪れたとき覚えた。それからは、商売と体力づくりを兼ねて、赤倉、高田に通ったという。

疎開30周年の集まりには疎開経験者40名ほどで高田に行った。その仲間たちほとんどが他界、「高田への集団疎開仲間はずなくなった」と貝塚さんはポツリといった。

貝塚さんの経営する「手打ちそば玄庵」は、葛飾区立石の4階建て自社ビルにある。3階に設置した石臼8台による、自家製粉の挽き立て、打ち立て、茹で立ての美味しいおそばが評判の店だ。その傍ら、同ビルで、「江戸東京そばの会」を運営し、プロ、アマ問わず多くの弟子を養成してきた。4階には地方からの生徒用宿舎も完備、この会を卒業し開業しているそば店は全国で200店以上にものぼる。

疎開という不幸な時代だったが、その厳しい経験を活かし、そして、高田との縁を大切にされてきた貝塚さん。その後の幾多の苦難をたくましく乗り切り、さらには次の世代を育てるなど、人生を実り多きものにされている達人である。

「つらいことなぞなかった」の真の意味が光っている。



貝塚様一お店の看板の前で

(伊藤利彦 記)

旅情のまち・直江津の魅力紹介とライオン像のある館（その2）

地域住環境建築研究所&直江津プライド2021 代表 一級建築士 磯田一裕

前号12月25日号に掲載の（その1）に続き、（その2）をお届けします。

■近代直江津の繁栄を今に伝える「ライオン像のある館」

皆さん三八朝市通りの北詰交差点近くにある「ライオン像のある館」を御存じでしょうか？

この建物は明治28年設立の直江津積塵銀行（明治33年に直江津銀行と改称）として建設された塗屋造りの銀行建築であり、直江津町史によると明治39年7月の大火により焼失、明治40年9月までに再建されたと推測されている上越最古の擬洋風建築です。

大正4年には直江津銀行が経営破綻し大正9年、直江津の石炭王と呼ばれた高橋達太氏により現在の位置に移築され、西側及び奥の敷地には新たな建物が建築され「高橋回漕店」の事務所として使用されており、寄贈される平成21年まで「高橋回漕店」として営業を続けていた建物で移築時には、大火の多かった直江津ならではのレンガ造りの防火壁が敷地の東西に建てられ、また玄関にはライオンの像が置かれ、古くから直江津の市民に「ライオン像の家」として愛された建物です。

私たちはこの魅力あふれる直江の津エリアを多くの来訪者に紹介し、直江津のファンになっていただければと「まちあるきツアー」やライオン像のある館の「保存・再生・活用」をメインに直江津のまちづくりについて活動してきました。

次の機会には、私が取り組んできた直江津まちづくりの15年をお話させていただきます。



明治期の旧直江津銀行の写真



大正9年に移築された当時の写真



現在の写真

上越産品販売のお知らせ

- Jネットふるさと市場として「取次販売商品一覧」を同封します。
現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（A 4判1枚）を同封にてお届けします。会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。
- 上越特産市場 上越市運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。
「上越特産市場 <https://www.joetsu-tokusan.jp/login/input.php>」からご覧いただき、お申込み下さい。
- 新潟・上越妙高「うまさ直送！雪国マルシェ」 商品内容は決まり次第、Jネット HP に掲載します。
恒例の上越特産品販売の「雪国マルシェ」は下記にて予定しています。
日時 2月25日（土）、26日（日）・3月25日（土）、26日（日）
会場 有楽町交通会館1Fピロティ 開業時間 11:30 - 17:30
お問合せ：JCV 東京情報センター
TEL：03（5218）7730
- 常設店舗「雪国商店」 場所 有楽町交通会館1F 営業時間 11:00 - 19:00 年中無休（年末年始は休業）

瀧川鯉橋師匠 出演予定 鯉橋：090-4730-9032 rik_yoh_taki@taupe.plala.or.jp（鯉橋メール）

- ◇ 1/31(火) 七人の侍＝流浪の落語勉強会＝
時間：午後1時～3時半ごろ 木戸銭：1,500円
出演：枝太郎、楽生、鳳志、鯉橋ほか 会場：お江戸日本橋亭（三越前）
- ◇ 2/1(水) えどはくスペシャル公演「おたのしみ寄席」
時間：午後2時～3時、午後4時～5時の二回公演
木戸銭：無料 ※要ご予約出演：鯉橋「時そば」、きょうこ（和ツマ）、正二郎（太神楽）会場：亀戸文化センター 3F・カメラホール（JR亀戸駅より徒歩2分）お問合せ・ご予約 TEL：03-3626-9992（江戸東京博物館管理課 公演担当）
- ◇ 2/11(土・祝)～20(月) 新宿末広亭・夜の部
交互出演のため、出演日未定。
- ◇ 2/17(金)・3/15(水) 七人の侍＝流浪の落語勉強会＝
午後1時～3時半、1,500円、お江戸日本橋亭（三越前）
☆ブログ～七転び八起の末のホンダラダ～ <https://blog.goo.ne.jp/rikyoh3194> もぜひご覧ください。 鯉橋拜
- ◇ 3/20(月) グリーンホール八起寄席
時間：午後6時半～8時45分 木戸銭：1,800円
(65才以上1,200円)
出演：吉禄、鯉橋、好田タクト（指揮者形態模写）、全楽
会場：相模女子大学グリーンホール（相模大野）
お問合せ TEL：042-749-2200（グリーンホール）
- ◇ 3/23(木) お江戸日本橋亭「鯉橋の会 vol.17」
午後6時開演、2,000円（前売・予約1,500円）、
鯉橋（二席）ほか詳細未定。
- ◇ 4/2(日) 昭月落語会 時間：午後3時～5時
木戸銭：2,000円 出演：鯉橋、里光（二席づつ）
会場：寿司屋の昭月（新川崎または鹿島田）
お問合せは鯉橋まで。

会員ひろば

こんなことをしています ～～ 楽器の演奏 ～～

昭和41年、中学校に入学をすると音楽の先生から「やっているといいことがあるよ！！」との言葉で吹奏楽部に入部をしました。「クラリネットかな～」と思いながら練習室に行くとバリトンという金管楽器を渡されました。

金管楽器は唇をブーブーと鳴らして音を出すのですが、最初は人に聴かせるような音は出ませんでした。それでも3年生の頃にはそれなりに曲が演奏出来るようになり、高校でも音楽部（吹奏楽）でバリトンを吹き、夜は市民バンドでもこの楽器の演奏をしていました。

上京してからも市民バンドで演奏していましたが、そのうちにそれが業務となるようになり、結局定年退職するまで楽器の演奏を続けました。

60歳を過ぎると体力も落ち、演奏の感覚も鈍くなって来ました。演奏レベルの低下が恥ずかしいので演奏も抑えていました。しかし、「エキストラで演奏して欲しい」との話があり、体調と相談をしながら、あまり難しいことを考えずに気楽な気持ちで良いならばと思い、再び演奏活動を始めました。令和4年はコロナ禍の中でも6回ステージにのりました。

この楽器、昔はバリトン（Baritone）または小バスのとも呼ばれていましたが、最近はユーフォニウム（Euphonium）と呼ばれています。主な活躍の場は吹奏楽中心で、吹奏楽以外ではその名前はあまり知られていません。今は中学校の先生の言うとおりに「やっていて良かったなあ～」と思っています。

（写真は12月のクリスマスコンサート終了後のスナップです。）

土田正栄（旧高田市内出身）



上越市からのお知らせ

●上越市ふるさと暮らしセミナー

『趣味から探した私の移住地 大自然を楽しもう!』の開催 募集人数：20人程度

上越市での暮らしの魅力や情報をU・Iターンを検討する皆さんにお伝えするセミナーです。

今回は、海や山で趣味を楽しむゲストから、移住地探しや今の暮らしぶりなどをお話しいたします。

日時：令和5年2月8日（水）午後7時～午後8時 場所：「Zoom」を使用し、オンラインで開催

対象：上越市へのU・Iターンを検討している人

♪フリーストークの時間もあります。

みんなで楽しくおしゃべりタイム！移住に対する不安や疑問、ゲストにあれこれ聞いていきましょう！

もちろん「上越市ってどんなところ？」という質問もOKです。気軽にお話ししましょう。

☆申込締切：2月6日（月）

☆申込先/電話：025-520-5674 またはメール：jichi-chiiki@city.joetsu.lg.jp で、自治・地域振興課へお申し込みください。



上越市ふるさと暮らしセミナー
二次元コード

●ふるさと納税の取り組みを拡充しました

上越市では、ふるさと納税を受け付けています。令和4年8月より、ふるさと納税ポータルサイトの活用を開始するとともに、上越産品の魅力発信と需要を高めるため、様々な産品を寄附に対するお礼の品に追加しました。

『ふるさと上越』への温かい応援をお願いいたします。

【参加しているポータルサイト（6サイト）】

- ・ANAのふるさと納税
- ・さとふる
- ・ふるさとチョイス
- ・JREMALLふるさと納税
- ・ふるぽ
- ・楽天ふるさと納税



上越産の美味しいお米もたくさんご用意しています。



「えちごトキめきリゾート雪月花（せつげっか）」お食事付プラン乗車券もご用意しています。

【主なお礼の品】

- ① 上越市への来訪機会を創出するもの
 - ・市内飲食店食事券（料亭、ワイナリー、寿司店等）
 - ・市内宿泊施設利用券（温泉宿、ゲストハウス等）
 - ・体験サービス（施設貸し切り、市内観光プラン、観光列車乗車券、墓参り、掃除、草刈り、新聞定期購読等）
- ② 食料品 米、餅、味噌、菓子、野菜、果物、肉、酒類（日本酒、ワイン等）、お茶、その他飲料品、さかきん発酵鍋 等
- ③ その他 工業製品、雑貨など

照会先：用地管財課 財産運用室（電話：025-520-5642）

●「上越市を語ろう」一皆様の手で上越市の魅力を発信

当会HPでも会員以外の閲覧も多く、上越に関心や興味をお持ちの方は大勢おられます。ところが、上越は意外と知られていないのが現実です。上越応援団たる会員の皆様をお願いします。広宣の最も強力な手段「口コミ」を活用し、リモートを含むお集まりの際には、ひと言、上越についてふれていただき、上越の宣伝をしていただきたいのです。よろしくお願いいたします。

上越観光物産センターの一時閉店のお知らせ

この度の上越観光物産センターの閉店に伴い、令和5年2月19日（日）をもちまして店舗閉店とさせていただきますこととなりました。

つきましては、上越観光物産店での取扱いをしばらくの間中止とさせていただきますと存じます。再開につきましては、店舗での準備ができ次第連絡させていただきます。

ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

有限会社上越商業サービス公社

●●●●● ネットからのお知らせとお願い ●●●●●

記事、寄稿、投稿、メッセージをお願いします。

会員の皆様には、ぜひとも、ご自分の思い出やご経験、上越魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事（1200字程度まで）と写真を送信いただければ幸いです。皆さまの貴重なお話は、読み手を元気にします。 送信先 事務局：k.miyazato@araipt.co.jp

コロナ禍の折、皆様には、くれぐれもご健康にご留意され、お過ごしください。

◎次号「たより」は令和5年3月10日の発行です。